

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	さくらプラス桔梗が丘 のぞみ校		
○保護者評価実施期間	令和7年2月10日		令和7年2月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2 (回答者数)	2
○従業者評価実施期間	令和7年2月10日		令和7年2月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9 (回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりに寄り添った手厚い支援 看護師等専門職がいることで健康管理、体調の変化の把握がしっかりできる	多職種と連携しながら他児との関わりを大切に、その子がその子らしい広がる支援を心掛けている。 児童一人一人の体調を看護師だけではなく職員全体で把握ができるように職員共有を常に行っている。	看護師から見た必要な支援を具体的に出し、職員に共有し研修等取り入れるようにしていく。
2	利用者の年齢層が幅広く様々な年齢の関わりが持てる	様々な年齢層の子どもが興味をもって活動に参加できるようにプログラムを職員間で話し合っています。	子ども一人ひとりの発達特性に応じ、積極的に活動に参加できるようにし、楽しみながら活動に参加できるようにしていく。
3	活動では、お子様一人ひとりに対する内容を職員間で共有し、何度も話し合いをしながら資料を作成する等、当日に向け事前準備を行っている。	1人1人できる内容が違うため、同じ活動でも様々な方法を考え実施している。 みんなでできる内容は輪になって行いそれぞれお友達の顔が見えるように楽しめるようにしている。	みんなのできる活動が少し少ない為、お友達のお手伝いをするなど交流を深められるように職員間で話し合いを行う。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童数が少なくお友達との交流があまりできない	放課後等デイサービスの利用者が多く児童発達支援の利用者があまり多く取れない。	利用曜日など振り分け、利用者が増やせるように努める。
2	専門職による支援	作業療法士、言語聴覚士、心理的支援など専門職による直接支援が望ましいが、現段階では、確保することはできていない。	必要な人材確保ができるまでは、現有の支援者が研修を重ね専門性に繋がる支援に取り組んで行けるようにしていきます。
3			